



むつみ荘だより



2025年11月 第331号



医療法人社団 なごみ会 老人保健施設 あさぎりむつみ荘

〒673-0852 明石市朝霧台 1120-4 TEL (078) 911-0623

なごみ会ホームページ <http://www.nagomikai.or.jp/>



日本の**夏** 42年で**3週間長く**

「春」と「秋」消滅し

温暖化が続けば **長い夏と冬の二季化**を懸念

医療法人 なごみ会
理事長 横山 光昭

日本の「夏」が、1982年～2023年迄の42年間で約3週間長くなっていたことが、三重大学院の立花義裕教授（気象学）の研究チームによるデータ解析で分かった。「冬」の期間は ほぼ変わらない一方で、春秋が短くなつて 夏の期間は年々日数が増加傾向にあり、四季が薄れ「二季化」する傾向がみられる。「**地球温暖化により、 日本近海の海面水温が異常に上昇していることが原因**」とみています。

気象庁は**夏を 6～8 月としており、気温による定義はしていない**。立花教授らは、**北海道から九州までの海洋を含む範囲を約 200 区画に分け、気象庁の観測データに基づき年間最高気温 42 年分の平均値を割り出した**。最低気温も同様に算出して、最高値から 4 分の 1 の気温を区画ごとの「**夏の基準**」とした。例えば最高値が 20 度で最低値が 0 度であれば、基準値は 15 度になる。

更に 42 年分の気温を 1 年ごとに分析。1 日だけ極端に低下した日などの影響が大きくなりすぎないように、毎日の気温は前後 2 日ずつを含めた 5 日間の平均値で並べた。**1 年間で夏の基準を初めて超えた日を夏の開始日、最後に超えた日を終了日とし、その間の日数を夏の期間と定義した。**